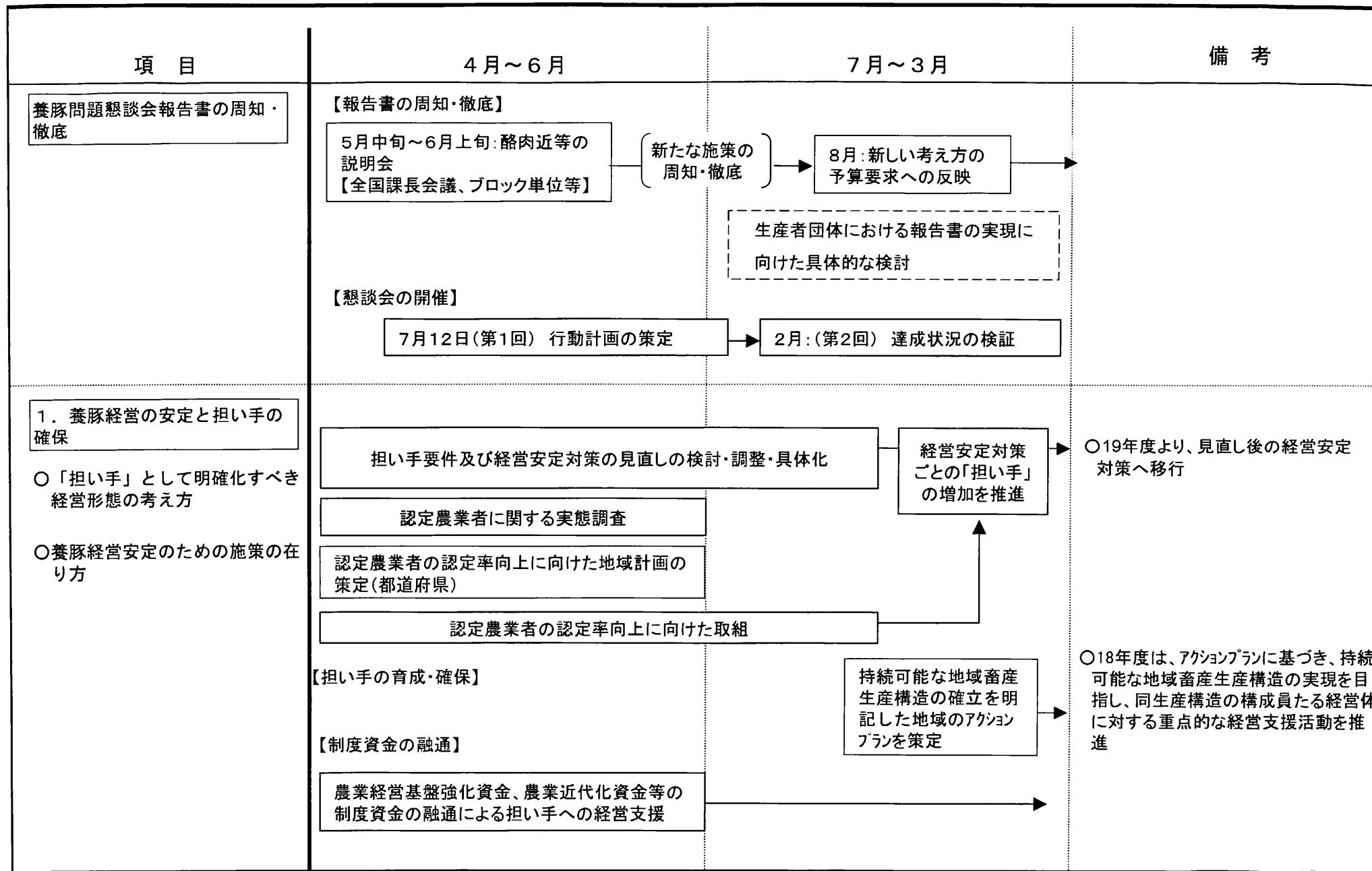


平成17年度
養豚問題懇談会報告書の具体化に
向けた行動計画(案)

平成17年7月
農林水産省



注: 計画欄の は、国、県等の活動、 は、団体の活動を示す

項目	4月～6月	7月～3月	備考
<p>○人材育成確保</p>	<p>専門家支援チームによる支援・指導、研修・セミナーの実施等</p> <p>〔青色申告の推進、適正な資金計画や経営改善計画の策定、これらに基づく法人化や多角化の推進等による経営体質強化を通じた先進的経営の育成・確保〕</p> <p>【担い手の育成・確保】</p>	<p>持続可能な地域畜産生産構造の確立を明記した地域のアクションプランを策定</p>	<p>○18年度は、アクションプランに基づき、持続可能な地域畜産生産構造の実現を目指し、同生産構造の構成員たる経営体に対する重点的な経営支援活動を推進</p>
<p>2 国際化に対応し得る生産・流通体制の構築</p> <p>○改良の推進</p>	<p>協議会等の開催</p> <p>〔6月10日 第1回家畜改良増殖推進検討会の開催 6月28日 第1回畜種別検討会(豚)の開催〕</p> <p>全国統一の基準による能力評価体制の整備</p>	<p>〔7月 検討会の開催〕</p> <p>〔11～12月 技術検討会の開催〕</p> <p>〔2～3月 普及推進会議の開催〕</p>	<p>○27年度の改良増殖目標の達成に向けた効率的な改良手法の活用の推進及び改良関係者の連携強化</p>
<p>○飼養・衛生管理の高度化</p>	<p>適切な飼養・衛生管理技術の指導・奨励</p>	<p>人工授精の普及率の調査</p>	<p>○27年度の改良増殖目標の達成に向けた飼養・衛生管理技術の高度化を推進</p>
<p>○生産資材費等の低減</p>	<p>動物用医薬品の承認申請に必要な資料の合理化のための国際間での安全性・有効性等試験の方法の統一化及び外国試験データの利用促進</p> <p>【畜舎建築基準の緩和措置の活用】</p> <p>生産者向けパンフレットの作成・配布</p> <p>生産者を含む関係者への周知徹底</p>	<p>生産者を含む関係者から緩和措置に対する意見等を集約</p>	<p>○18年度以降も適宜内容を更新・改善、配布・周知。</p> <p>○関係者からの意見に基づき、更なる規制緩和につき検討、普及推進</p>

項目	4月～6月	7月～3月	備考
<p>○加工・流通・販売の合理化</p>	<p>6月～ 食品残さの有効利用に関する実態把握</p> <p>6月～ 港湾諸掛かりの実態把握</p> <p>4月～ 丸粒とうもろこし、飼料用麦のSBSの利用、 有効活用ををPR</p> <p>食肉処理施設の再編整備等に係る 事業要望の把握</p>	<p>実態把握の結果や規制緩和の状況 等を踏まえ、関係者へ必要な情報 の提供</p> <p>7月～ 17年度下期のとうもろこしの関税割当、 次年度SBSの運用の検討、設定</p> <p>7月～ 生産者側の配合飼料の受入 体制の検討を要請</p> <p>事業の実施</p>	
<p>3 多様なニーズに対応した国 産豚肉の生産、供給の取組</p> <p>○銘柄化の推進</p>	<p>地域の実情に応じた基本計画 の見直し</p> <p>4月 都道府県段階における 検討会の開催</p>	<p>銘柄豚のPR 優良事例の調査・情報の提供</p>	
<p>○トレーサビリティ・システム、 生産履歴情報提供の取組</p>	<p>【トレーサビリティの取組】</p> <p>生産・流通過程の追跡・遡及を可能とするシステムの普及・定着への取組</p> <p>【生産履歴情報等の提供】</p> <p>流通段階等における偽装表示の防止強化の取組</p> <p>「生産情報公表JAS規格」の普及・定着への取組</p>		

項目	4月～6月	7月～3月	備考
<p>4 自然循環機能の維持・増進</p> <p>○未利用資源の有効活用</p>	<p>5月12日：飼料自給率向上戦略会議の開催 (平成17年度行動計画の決定等)</p> <p>6月16日：全国食品残さ飼料化行動会議の開催 (平成17年度行動計画の決定等)</p>	<p>・食品残さの飼料化リーフレットによるPR</p> <p>・食品残さ飼料化の取組の優良事例の収集、提供</p> <p>・食品産業、畜産農家、関係団体等のネットワークづくり</p> <p>・シンポジウムの開催</p>	
<p>○排せつ物の適正な管理と利用の促進</p>	<p>【家畜排せつ物の管理の適正化】</p> <p>4月～：家畜排せつ物処理施設(共同及び個人)の計画的な整備を実施</p> <p>【家畜排せつ物の利用の促進等】</p> <p>6月～：家畜排せつ物利活用計画に係る調査検討を実施</p> <p>～8月：作物生産農家の使いやすい肥の生産マニュアル(仮称)の作成</p> <p>【耕畜連携によるたい肥利用の推進】</p> <p>4月～：都道府県等地域の主導による創意工夫を凝らしたたい肥利活用の取組を支援</p> <p>4月～：JA等団体の主導によるたい肥利活用のモデル事業を支援し、その確立・普及を推進</p> <p>【環境規範の導入】</p> <p>3月31日：環境規範を策定</p> <p>〃：点検活動の手引きを作成・配布</p> <p>各種支援策への要件化(クロス・コンプライアンス)(バイオマスの環づくり交付金等の要領等において要件化)</p>		<p>○経営規模や地域の実情に応じ、簡易対応から施設整備への移行を推進</p> <p>○利活用の取組の推進や技術開発・実証普及の取組を推進</p> <p>○作物生産農家のニーズに合ったたい肥を供給するための取組等の実施を通じ、耕畜連携の強化を図り、水田等へのたい肥利用を推進</p> <p>○順次、各種支援策への要件化を検討</p>

項目	4月～6月	7月～3月	備考
<p>5 疾病の発生予防と衛生管理水準の向上</p>	<p>・飼養衛生管理基準の遵守の徹底 ・HACCP手法の普及・定着等の推進</p> <p>特定家畜伝染病防疫指針を追加策定(豚コレラ) ・4月28日牛豚等疾病小委 ・6月15日豚コレラ撲滅全国検討委員会の開催</p>	<p>家畜衛生部会の開催 (特定家畜伝染病防疫指針の策定)</p>	
<p>6 国産豚肉の消費拡大及び食育の推進</p> <p>○国産豚肉の消費拡大の推進</p>	<p>食肉処理施設における部分肉加工等に係る事業要望の把握</p>	<p>事業の実施</p>	
<p>○食育の推進</p>	<p>【ふれあい体験交流を通じた食育の推進】</p> <p>6/28、7/12 : 全国説明会の開催</p> <p>7月下旬 : 委員会の開催</p> <p>12月 : 委員会の開催</p> <p>11月 : アンケート調査の実施</p> <p>【インターネットを使った畜産情報の提供・相互交流】</p> <p>5/28 : LIN推進協議会開催</p> <p>6/23 : LIN団体連絡会・推進委員会の開催</p> <p>12月 : LIN推進委員会開催</p> <p>動画情報の提供、消費者モニターの確保、情報交流用等を通じて生産者と消費者双方向のパートナーシップの向上を推進</p>	<p>地域交流牧場協議会の設置</p> <p>ふれあい牧場サポーター・交流牧場関係者養成研修会の開催</p>	